

地対協コーナー

今号は、広島県の新しい取り組みについて協議している委員会活動をお届けします。

予防接種・感染症危機管理対策専門委員会では、国の「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」に基づき、県内でも地域ごとに薬剤耐性率が異なる現状などを踏まえ、薬剤耐性（AMR）対策の推進に向け検討しています。

また、精神疾患専門委員会では、「広島県アルコール健康障害対策推進計画」に基づき、アルコール健康障害を有する者が、早期に診断、適切な治療および回復支援を受けることができるよう、「広島県アルコール健康障害サポート医」などの養成に向け取り組んでいます。

さらに、肺がん検診推進WGでは、肺がん検診結果報告に係る標準様式の作成に向け協議・検討し、年度内の完成を目指しています。

皆さまのご要望やご意見などがございましたら、遠慮なく、事務局までお寄せください。また、過去の委員会活動などは、地対協ホームページ（<http://www.citaikyo.jp/>）へ掲載していますので、アクセスをお待ちしております。

○予防接種・感染症危機管理対策専門委員会

日 時：平成30年1月15日(月) 19時00分

場 所：広島県医師会館3階 302会議室

委員長：桑原 正雄

平成28年度事業を振り返り、今後の委員会活動として、薬剤耐性（AMR）対策の推進に向け対応することを確認した。

報告・協議事項

(1) 平成28年度広島県地域保健対策協議会報告書について

桑原委員長より、昨年度の委員会活動として、「海外で気をつける蚊媒介感染症」のリーフレットを作成したこと、また会内に予防接種WGを設置し、県内自治体間の定期予防接種の接種率の違いについて検証した旨報告した。

(2) 予防接種WGの活動報告について

渡邊WG長が同WG設置の目的と経緯を説明後、昨年度の活動として、市町別接種率および接種勧奨方法を調査したこと、平成29年度は、市町へB型肝炎及び日本脳炎ワクチン、定期予防接種の接種勧奨方法について調査し、その結果を基に平成29年9月27日(水)に市郡地区医師会予防接種担当理事及び市町担当者連絡協議会を開催し、接種率の向上に向け意見交換した旨報告した。

(3) 薬剤耐性（AMR）対策の推進について

委員が所属する団体の取り組みとして、広島県病院薬剤師会のAURサーベイランス事業、広島大学院内感染症プロジェクト研究センターの取り組みの報告と鳥取県の院内感染対策サーベイランスについての紹介があった。

委員からは、広島県では薬学、検査、基礎、医療機関、行政のネットワークが構築されている利点を活かした事業の展開を要望する意見、県全体でベンチマークがあれば、院内の活動にも有用であるとの意見があった。一方で慢性期病院の問題が指摘された。また、診療所で日常使用の抗菌薬がどのくらい影響しているのか、情報還元があれば、開業医にとっても有用であるとの発言もあった。

今後の委員会活動の柱として、薬剤耐性（AMR）対策の推進に努めることを確認し、本委員会内にWGを設置し、年度内に具体的な取り組み内容について協議・検討することとした。

(4) その他

県内での麻しん集団発生、また平成30年1月1日から風しんの届出基準が変更されたため、今一度、注意喚起を図るべく、医療機関向けのリーフレットを作成することとした。

○予防接種・感染症危機管理対策専門委員会 薬剤耐性（AMR）対策WG

日 時：平成30年1月24日(水) 19時00分

場 所：広島県医師会館3階 305会議室

WG長：桑原 正雄

薬剤耐性（AMR）に関する対策の推進に向け、今後の具体的な取り組み内容などについて、協議・検討した。広島県版サーベイランスの構築に向け、広島県病院薬剤師会の抗菌薬データや院内感染対策サーベイランス（JANIS）に参加している県内病院の微生物検査データを活用

し、県全体、地域ごとの耐性菌と抗菌薬を共有する方向で依頼することとした。

報告・協議事項

(1) 薬剤耐性(AMR)対策の推進について

次年度以降の取り組みとして、県内ですでに出来上がっているネットワークを活かし、広島県病院薬剤師会のAURサーベイランスと、JANISへ提出のデータを活用した取り組みを進めることとした。

広島県病院薬剤師会とJANISに参加している病院、広島県臨床検査技師会へデータ共有について依頼後、協力が得られれば、データを共有して解析し、医療機関へ還元する取り組みを目指すこととした。

なお、データ解析に必要なシステムについては、参考として鳥取県の院内感染対策サーベイランスの解析システムを調査することとした。また、データ解析の主体として、広島大学院内感染症プロジェクト研究センターやNPOひろしま感染症ネットワークなどが候補として挙げられた。

○精神疾患専門委員会 広島県アルコール健康障害サポート医養成研修(西部)

日時：平成30年1月25日(木) 19時00分

場所：広島県医師会館2階 201会議室

アルコール健康障害対策の着実な推進を図るため、行政、事業者、医療関係者、自助グループなどさまざまな関係者からなる連絡協議会を設置し、広島県の実情に即した「広島県アルコール健康障害対策推進計画」を策定した。同計画の目標の一つである「アルコール健康障害サポート医と専門医療機関等の連携の促進」を図るため、サポート医養成研修を開催した。同様の研修会を平成30年2月1日(木)、福山会場でも開催した。

講演内容

広島県健康対策課より「広島県アルコール健康障害対策推進計画」の概要とサポート医を養成することとなった経緯とサポート医が担う役割などについて説明があった。

続いて、瀬野川病院・KONUMA記念広島薬物依存・地域精神保健研究所の加賀谷有行所長より「アルコール健康障害の概念とその治療」について、呉みどりヶ丘病院の長尾早江子院長より「アルコール健康障害への介入と多職種による支援」について講演した。

広島県断酒会連合会の中田克宣会長からは、「自助グループの活動」について紹介があった。最後に広島県健康対策課より、サポート医(専門)へ紹介する際の紹介状、報告書について説明し、出席者へサポート医としての協力を呼びかけた。

○第1回肺がん検診推進WG

日時：平成30年1月30日(火) 19時30分

場所：広島県医師会館5階 501会議室

WG長：服部 登

本県では、乳がん・子宮がん・胃がん・大腸がん検診にかかる結果報告様式の標準化を行い、市町がん検診において未把握率の改善が認められている。肺がん検診においても一次検診結果票様式、精密検査紹介状、精密検査結果様式の作成に向け検討した。

報告・協議事項

肺がん検診結果報告に係る標準様式の作成について

広島県内市町での肺がん検診精検未把握率は24.2%であり、0%に近いことが理想である。特に個別検診での未把握率34.6%と高い状況にあり、原因としては精検受診の有無や精検結果を把握できていない市町があることが要因として考えられる。

こうした現状を踏まえ、他のがん検診及び精密検査に係る各種様式や他県の様式などを参考に、肺がん検診結果報告標準様式について検討した。

委員からは、医師の負担軽減を求める意見が多くを占めた。様式については、年度内の完成を目指し、平成30年3月27日(火)に開催予定の第2回会議にて最終案を確定させ、承認を得る予定とした。